

9月「Sommer」 アントニア・シュルト

1.

北ドイツで生まれ育ったというのと、寒いところを想像する人が多いと思いますが、それはおそらく「北」という言葉が入っているからでしょう。確かに、「北海道」や「北極」にも入っているので、寒いと思ってしまうのは、当たり前かもしれません。そういう話になると、よく「山がないからそんなに寒くない」か「ここより寒いけど、平均気温が9度で、一年中雨が降っている」という風に返事します。北ドイツは「海洋性気候」にあたる地域です。その影響で、最低気温と最高気温の差が小さいです。地球温暖化に関係があるかどうかという質問は専門家に任せますが、最近の冬は短くて、雪が降らないことも多くなってきました。同じく、最近の夏は異常気象が増え、この間出身地であるキール市の天気を調べようと思って、半分、悪い天気を予想しながらアプリを見ると、一週間ずっと30度で晴れという予報でびっくりしました。ちっちゃい頃の夏場を思い出そうとすると、確かに3日間連続のいい天気があったような気がしますが、大人になって、涼しい雨が多かった夏の記憶しかないぐらいです。

9月「Sommer」 アントニア・シュルト

2.

「季節情感障害」というのをどこか読んだことがあります。そこまではないかもしれませんが、天気で悩む気持ちはよく知っています。いつか夏が暑い国に住んでみたいと決めました。あの時はその「暑い」という言葉の本当の意味まだ知りませんでした。日本に来て、予想通り夏が暑いことで喜びましたが、梅雨を経験したり、カビと戦ったりして、どんな天候にも挑戦があるという勉強になりました。

コロナで夏の楽しみが限られていますが、庭にある桜の木の下で、山のパノラマを見ながら、日本のおいしいビールを飲む楽しみさえあれば、私には充分です。